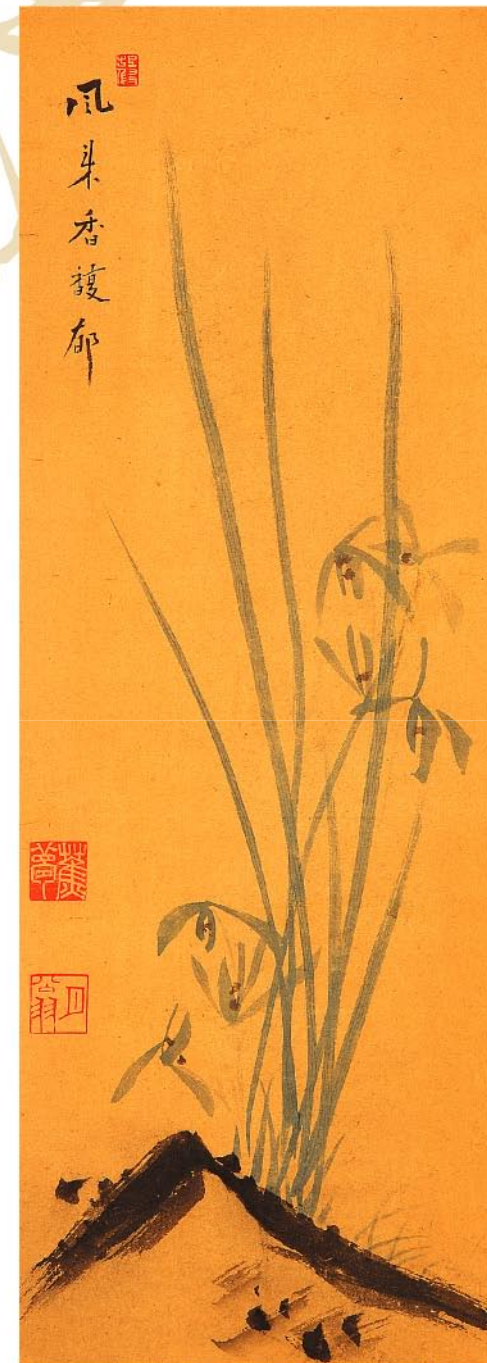


細川月翁

蘭

※字土支藩六代藩主本名興文、享保十二(七二五)年、天明五(七八五)年藩校温知館設立。
蕪水大改修など民政に功績がある。茶道にも造詣が深く、蕉夢庵をつくる。また、俳句・詩歌をたしなむ。



このコーナーでは、尚綱学園が所蔵する絵画や書、寄贈された美術品などを紹介していきます。学園のもうひとつの顔として、お楽しみください。

学校法人 尚綱学園 広報誌
SHOKEI EDUCATIONAL INSTITUTION
PUBLIC INFORMATION

礎

ISHIZUE

2005.May vol.04



— 尚綱短期大学附属幼稚園 —
**おおらかな自然の中に
 木の温もりあふれる
 新園舎が完成しました。**

旧幼稚園園舎は築35年以上を経て老朽化が進み、加えて園児の発表会や保護者のためのスペースが無い等不便をかかっておりました。園舎改築事業が、熊本県の私立幼稚園施設整備補助事業として認められ補助金の受給が内定したことで、改築計画が大きく前進することになりました。平成16年3月理事会で基本計画の承認を受け、設計コンペ、競争見積もりを行い専門家を加えた学内審査の結果、株式会社岩永組の基本設計を採用し、発注することになりました。平成16年9月起工式を行い、6ヶ月間の建設工事の末、平成17年3月に竣工いたしました。



新園舎竣工式(多目的ホール)・平成17年3月21日(月)

天窗からはやさらかな自然の光がいつもまわっています。



たのしい絵本が並ぶ図書室。



廊下にも遊びのスペースが広がる。



太陽がさすおかげに、開放感にあふれたつくりです。



広がる園庭には、子どもたちの声がひびく。



礎 いしずえ | vol.04 Contents

◎巻頭特集 尚綱短期大学附属幼稚園新園舎完成	巻頭
これからの幼児教育のかたち	2
21世紀社会が求める人材育成を目指し 新たな尚綱大学が始まります。	6
新任紹介	9
尚綱学園史	10
◇礎 連載コラム「貧しい国の豊かな心」	11
キャンパス イベントレポート	12
◇尚綱コレクション「細川月翁・蘭」	巻末

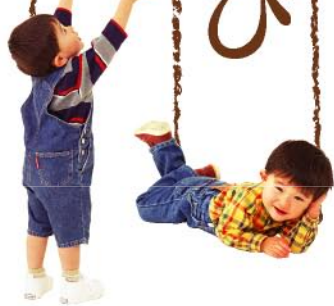


これからの幼児教育のかたち

子どもたちと

ともに学び

成長する



平成17年3月完成の新園舎で取り組む豊かな心と身体づくり

平成17年4月から、尚絅短期大学附属幼稚園は、同じ構内に完成した新園舎へ移転しました。そこでは、開園以来培ってきた自然に囲ま



木の香りがあふれる室内

れた環境を再現する一方で、運動場の新設など施設の充実、四季の花や果樹に親しむ園づくりなどに取り組む予定です。

これは、当園が大きな教育目標として掲げてきた、遊びを通して、豊かな心と身体を育むための環境づくりをさらに押し進める形で実現したものです。

子どもが発達に応じた遊びをしたり、遊びから対人関係を学ぶ機会を持つことは非常に重要だといわれています。しかし現代の子どもは成長段階に関わらず、TVやゲームのように動きが制限された遊びに偏ってしまう傾向にあります。そのような状況をふまえ、これまで幼稚園では敷地に雑木林や草原など自然を残し、木登りや泥んこ遊び、クワカタ採りなど、子どもが思いきり遊べる環境づくりを行ってきました。

自然環境の中で遊ばせることは、けがなどのリスクを伴うものではありませんが、大切なのはリスクを避けて遊びの環境を限定することでなく、安心して遊べる状況を整える配慮と努力をすることなのです。

豊かな自然の中での遊びや体験学習は、豊かな心と身体を養い、自

ら遊びをつくり出す創造力を育てていきます。新園舎はそのためのフイールドとして、さらに大きな期待が寄せられています。

基本的な生活習慣を身につけるのに最も適した就学前

もうひとつ、幼児教育を考える上で重要なのは、就学前が生活習慣を身につけるのに最も適した時期でもあるという点です。自分で自分のことができることは自立への第一歩です。挨拶や規則正しい食事、排便など、当たり前のことが当たり前にできる習慣を身につけることが大切ですので、定期的に家庭内の生活習慣調査を行い、指導の参考にしています。

当園は尚絅短期大学の実習施設としての役割も兼ねており、教諭はすべて尚絅の卒業生。今後は短期大学との連携をより密にし、幼児教育研究の場、理論実践の場として機能させていくことを目標にしています。幼児教育の役割とは子どもを到達度で比較することではなく、長い人生の基礎を築き、道しるべを示すこと。その極めて重要な役割を、社会、家庭、教育機関がそれぞれに再

確認する時期にきているのではないのでしょうか。

現代の子どもを取り巻く環境を理解し新しい子育てのあり方を考える

「最近の子どもたちは屋外で遊ぶ機会が少ない。皆さんは、その理由をこ



存じでしょうか。最大の要因は、子どもが安心して遊べる場所がなくなってきたことにある。1955年と1990年を比較した場合、安心して遊ぶことができる場所は全国平均で95%減少しました。一方、熊本市教育委員会が子どもを対象に行った調査では、子どもは「お金がかららず、自由に遊べる場」で、「高い所に登ったり、叱られない」といった要望を持っていきます。遊びたいのに遊べないと悲鳴を上げている子どもに対し、大人側が応えていないというのが現状です。要求を満たさないという現在の育ちの環境は、子ども自身の将来に大きな影響を与えます。その現状の理解と打破にむけて行動を起こすところ、幼児教育の場で求められているといえるでしょう。その端は、核家族化にあるのでしょうか。

い所に登ったり、叱られない」といった要望を持っていきます。遊びたいのに遊べないと悲鳴を上げている子どもに対し、大人側が応えていないというのが現状です。要求を満たさないという現在の育ちの環境は、子ども自身の将来に大きな影響を与えます。その現状の理解と打破にむけて行動を起こすところ、幼児教育の場で求められているといえるでしょう。その端は、核家族化にあるのでしょうか。



実は、1920年代と比べても、全世界における核家族が占める比率は大幅には増加していません。問題はそれぞれの家族が地域社会との繋がりを断ち、孤立を深めた点にあるのです。それまでごく自然に行われてきた子育ては地域全体で行うという意識が薄れ、また、高度成長期に進んだ男女の役割分担化が、周囲に頼る人のいない若い母親を生みました。

そこで子育てを支援するという目的で生まれたのが、サークル活動です。大切なのは、大人側が、子どものために活動に参加するということ。認識をしっかりと持つことにありますが、実際は、母親が主体性を持たず、自分自身のためにお客さんの立場で参加するという依存型が多いのが実状です。活動は、自分と他人の子どもを区別することなく、子どものために行うという理念を持つことが必要でしょう。

子どもを取り巻く環境は激変し



ています。テレビや携帯電話、パソコンなどのメディア環境が、発達の過程を変え、生の人間同士の「ミニニケーション」を希薄にし、結果として幼児教育の現場では、個別対応が必要とされる子どもが増えています。だからこそ、私たちは、まずは子どもを見つめ、子どもたちの子育てを行わなければなりません。そして、その理念を理解し、行動できる教育者の養成が、当学園に求められている社会的役割だといえます。



子どもたちと
ともに学び
成長する



幼児教育の現場で 求められている 即戦力としての 保育者の育成に向けて

幼児教育の現場では、保育者自身が高い資質を備えているかどうかが問われます。平成13年には、文部科学省で幼児教育振興プログラムが策定され、養成校の段階でも実践的な研修の充実が求められるようになってきました。2年間という短い期間で、特別な専門性を備えた即戦力となりうる人材の育成はかなり難しいのが現状ですが、当校では、保育者の育成にあたって、まずは学生の主体性をのばし、感性を磨くことを大切に行っています。そのために重要なのが、実習による実践の積み重ねです。当校では附属幼稚園と学外で、計10週の実習を行っています。そこで初めて、保育者自身の心の豊かさ、意欲、生きざまがあらわになり、短大入學までの20年近くで形成された本人の資質に対する自覚が生まれます。現場に出て初めて、学校で学んだ間とのギャップを感じ、悩む学生も多く見受けられますが、一方で、1年次に学んだ保育原理の理論と教育の現場での体験が繋がり、多角的視野から幼児教育のあり方を見よつと

する姿勢も生まれてきます。結果、理論を理解しよつとする力、授業態度が飛躍的にのびてくるのです。私たちがめざしているのは、幼児の心を理解する力、カウンセリಂಗ・マインドで子どもに接することができる保育者、遊びを主体にした総合的な指導力を備えた保育者の育成です。幼児教育は、小学校の「ミニユ・ア版」に、子どもたちに知識と技能を身に付けさせる場ではありません。「三つ子の魂百まで」という言葉に現わされるように、心の教育こそが大切な時期の子どもと接する保育者には、感性の幅を広げ、気付き力を磨くことが求められるのは当然のことといえるでしょう。また、子どもたちの感動体験に立ち会い、気付きを発見して行動することの重要性を認識すること、子どもたちのあが



ままの姿を理解し、心に届く評価をして心の育ちを促すことも求められます。一人ひとりの心を見ながら、柔軟に対応し、幼児発達の特徴を考えながら、プロセスを大切にしながら教育を行うことが大切なのです。

多様な経験を通して主体性を発揮し、感性を磨くために組まれていく多彩なカリキュラムに対して、学生たちは非常に素晴らしい態度で取り組んでいます。保育者として求められる仕事は大変厳しく、努力が求められるのですが、子どもと保育者が一緒にプロセスを達成するという喜びを味わうことができます。また、短大では、卒業生を対象にしたリカレント教育としてサマーセミナーを開催し、その後の指導にも力を入れていきます。常に自身の保育を反省し、拓いていくという考えに基づいた保育者こそ、私たちがめざしている保育者像だといえるのです。



尚綱短期大学 子育て研究センターとは

平成12年、全国に先駆けて設置した「尚綱短期大学子育て研究センター」は、地域に役立つ資質を備えた保育者の育成にむけて、地域社会との連携を図りながら、ユニークな活動を展開してきました。ここでは、発達保証を原点にした子育てに関する調査研究、保育者養成の充実と保育所、幼稚園、家庭などにおける子育ての充実振興の推進を目的としています。また、公開シンポジウムや熊本県下における子育て支援センターの調査、地域プロジェクトとして関係諸団体へのアンケート実施など、地域におけるさまざまな活動を行ってきました。

平成16年には、その研究報告を集録した定期刊行物「次世代育成研究 児やらい」を創刊。全国的なデータの収集・分析などを通して、国の政策に基づく子育て支援の方針をとらえなおしたり、地域社会で求められる子育て支援のあり方などについて、従来の説にとらわれることのない、新たな提言の発信を行っています。

多くの学外実習を通して、 子どもとの接し方を学ぶ

保育園の先生に憧れ、子どものお世話をする仕事に就きたいと思ったのが、幼児教育科に進んだきっかけです。2年間で専門的な知識を身につけるのは大変ですが、尚綱附属幼稚園や学外での実習を体験することで



平成10年卒
尚綱附属幼稚園勤務
福山 智子さん (27歳)

授業内容がより理解しやすくなりました。特に最初に行う附属幼稚園の実習では、挨拶の仕方から子どもへの接し方、報告の仕方など親身に指導していただき、学外で実習する際の安心感につながりました。卒業後は附属幼稚園に勤務し、お姉さんの立場で子どもと遊んでいる学生時代とは変わって、一人ひとりの子どもを見守る視点を持つことができるようになりました。子どもは遊びを通して疑問を持ちたり、時にはけんかをしたりします。そこに少し手助けをすることで、子どもの大きな成長に役立ちたいと思っています。

自らの経験を地域の 子育て支援活動に役立てたい

学生時代を振り返ると、課題の提出やピアノの授業などを必死に頑張った記憶があります。子どもが好きで、人とふれあう仕事がしたいと選んだ進路でしたが、その思いは実習を経験してより強くなりました。尚



昭和57年卒
菊池さくら保育園勤務
剣 幸美さん (43歳)

綱で厳しく指導していただいたことが、現場で一番役に立っています。卒業後、新設されたばかりの現在の保育園に勤務し、何もない状態から少しずつみんなの園の環境を整えてきたので、仕事に対する思い入れも深いです。2年程前から地域に密着した子育て支援センターを立ち上げています。週2回の活動は妊娠中から就学前の子どもまでを対象にし、子どもの友達づくりはもちろん、保護者同士のネットワークにも役立っています。保育のキャリアと自分の子育て経験を活かして、保護者の身近な相談相手になれることもこの仕事の大きなやりがいです。

施設実習をきっかけに 障害者福祉の世界へ

短大を卒業後、知的障害者の支援施設に勤務しています。施設で生活する約50名の方と日常生活を共にし、自立をサポートする仕事です。学生時代にこの施設で実習した際、利用者一人ひとりを尊重しながら支えている



平成16年卒
第2明星学園勤務
岩本 直子さん (21歳)

点に魅力を感じ、進路を決めました。就職から一年経った現在も、その気持ちは変わりません。日々の活動を通して利用者との信頼関係を築くことで、障害者の方たちは次第に心を開いてくれるようになります。現在は高齢者4名のグループを担当しており、今後は専門的な資格を取得したり、老人性認知症の療法を学びたいと考えています。学生時代に複数の施設で実習したことが、未知の仕事に通りあい、自分の可能性を広げるきっかけになりました。2年間妥協せずに学んだことが、現在の仕事につながっているのだと思います。

就職して再発見した 幼児教育の魅力

長年の夢だった幼稚園の先生になつて3年目。子どもたちが私のことを先生と呼んでくれることに、毎日喜びと責任を感じています。仕事をする上でいつも心がけているのは、子どもと同じ目線で物を見て、感じる



平成13年卒
大塚幼稚園勤務
浦田 志保さん (23歳)

ということ。そして友達の一人のように子どもに接するということです。在学中、実習や就職活動を体験するうちに、自分に動まるのたろうかと自問自答して自信をなくした時期もありました。しかし実際に働きはじめると、子どもたちから教えられることが多く、自分も一緒に成長している仕事だと思ふようになりました。今はこれが天職だと思っています。元クラスメイトたちとは、年に1回集まる機会を持っています。情報交換をしたり、相談をしたり、今でも励ましあえる仲間がいるのも心強いことです。

21世紀社会が求める人材育成を目指し 新たな尚綱大学が始まります。

新学部開設



<p>〔改組〕4年課程 文化言語学部 (仮称)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化言語学科 日本コース 書道コース 米英コース 英語コミュニケーションコース 	<p>〔新設〕4年課程 生活科学部 (仮称)</p> <p>(平成18年4月開設申請準備中)</p> <ul style="list-style-type: none"> 栄養科学科 生活科学科 (計画中) 	<p>〔改組〕2年課程 短期大学部</p> <ul style="list-style-type: none"> 食物栄養学科 総合生活学科 (仮称) 幼児教育学科 附属幼稚園
--	--	---

尚綱学園は、明治21年に産声を挙げた済々餐付属女学校を源流とし、既に115年余りの歴史を重ね良き伝統を培ってきた、我が国先駆者の総合女子学園です。本学園が擁する尚綱短期大学(昭和27年設置)及び尚綱大学(昭和50年設置)はそれぞれ今日に至るまで独自の社会貢献をして参りましたが、尚綱学園の古き良き伝統を維持しつつ、これからの社会の極めて急速な変化に即応し、社会的要請に応えることのできる人材を育成するため、学部の新設(生活科学部=申請準備中)や改組(文化言語学科、総合生活学科)によって一段と実効性と実践性の高い教育の展開をめざし、平成18年度に生まれ変わります。



**文化言語学科
日本コース**

日本の文化と日本人の心を学びます。

日本の文化や言語をより深く理解するために、中国や韓国のことにも触れながら多角的に学びます。また、日本の優れた文学作品を調査研究することによって、日本人の心を学び、力強く生きる心を育てます。



**文化言語学科
書道コース**

「書道」を学ぶなら尚綱です。

具体的に言えば、理論は書学概論、書論研究、書道史など、実技は漢字の楷書・行書・草書に始まり、隷書・篆書・篆刻・仮名書法さらに創作までおこないます。古典の臨書・創作と段階を踏んで身に付くようなカリキュラム構成になっています。



**文化言語学科
米英コース**

英語コミュニケーションコース

「読む・聞く・話す」から文化まで「世界の今」を学びます。

米文化だけではなく、英語圏の国々の歴史や文化を学ぶと共に、現代アメリカイデオロム、メディア英語、TOEIC/TOEFL Preparation、留学等のプログラムにより、国際的に活用できる、英語力を身につけます。また、世界的に活躍しているアメリカの有名大学の教師を本学の教授として招き、総合的に米英語と文化を教えることも特色の一つです。



**生活科学部
栄養科学科**

管理栄養士をめざして

保健・医療・福祉制度など、幅広い視野をもって判断できる管理栄養士の育成を目的とした学科です。

糖尿病・高血圧・高脂血症など、食生活の管理によって予防できる疾患やその治療には保健医療チームが必要であり、その一員としての管理栄養士の必要性が高まっています。

また、これからの高齢化社会では、豊かな人間性と高い専門性をもった保健医療者や栄養管理者がますます必要となっています。

21世紀社会に予想される健康と栄養の問題に積極的に取り組み、貢献できる教育と研究をめざします。

尚綱のために新しい風! 新任紹介

新学期より9名の先生と5名の職員が就任されました。

教 員



尚綱大学 文学部
教授 J.N.ラビノヴィッチ
(前ピタゴラス大学日本語・文学科主任教授)



尚綱大学 文学部
講師 畑田 秀将
(前尚綱大学非常勤講師)



尚綱大学 文学部
助教授 伊織 洋一
(前私立高校教諭)



尚綱短期大学 幼児教育科
講師 森野 美央
(前広島大学大学院博士課程修了)



尚綱短期大学 幼児教育科
講師 中村 真弓
(前九州大学大学院人間関係学博士課程修了)



尚綱短期大学 幼児教育科
講師 横山 博之
(元県立高校講師・美術作家)



尚綱高等学校
講師 高村 竜志
(前私立高校講師)



尚綱高等学校
講師 黒川 正
(前私立高校教諭)



尚綱短期大学附属幼稚園
教諭 渡邊 美代子
(前幼稚園職員)

職 員



尚綱大学
事務部長 清田 保生
(前熊本大学総合企画室企画室長)



尚綱大学
庶務課長 堀川 元征
(元県立高校主任事務長)



尚綱短期大学
学生課長 富高 英雄
(前熊本大学学務部学生課長)



尚綱短期大学
庶務課長 酒井 経昭
(前県立高校主任事務長)



尚綱大学
図書館司書 北口 巳津子
(前岡山社科大学短文学部研究科
教育学専攻博士課程前期修了)

短期大学部 食物栄養学科

【2年課程】
優秀な栄養士の育成を目指して。

栄養士養成課程として、常に時代の要請に対応しつつ、深い専門知識と実践的な技能に重点を置いて教育し、建学の精神をふまえ、高い教養を身につけた「食の専門家」の育成を目指しています。恵まれた各学習施設、教育環境の中で、栄養学、食品学、生理・生化学などを中心とした基礎理論、さらに調理学、給食管理、栄養指導に加え、これらの実験実習と学外で行う臨地訓練にも多くの時間が割り当てられています。多数の卒業生が、各分野(病院、保育所、福祉施設、老人保健施設、食品関係企業、学校、市町村)の栄養士として県内を始め、九州各県で活躍しており、県内の各方面で働く栄養士・管理栄養士の70%を、本学の卒業生が占めています。

また、卒業後、栄養士として3年間の実務経験を積むことにより、管理栄養士国家試験の受験資格が得られます。本学卒業生の管理栄養士国家試験合格者は全国の短期大学のトップグループに入っています。



短期大学部 総合生活学科

【2年課程】
生活環境を創造する能力の育成を目指して。

より快適で豊かな生活環境(衣・食や家庭生活の中での住まいや経済等)を創造する能力を育成し、また、実社会で通用する多様な資格取得を目指します。学科の特徴として6つのフィールドを用意しています。



短期大学部 幼児教育学科

【3年課程】
小さな手に大きな夢をつかむ、はじめの一歩、だからプロの目でしっかりと支えます。

「三つ子の魂百まで」。幼い頃の教育は、その人の未来に大きな意味を持っています。幼児期は、いわば、伸びていく新芽。たっぷりの愛情を注ぎ、のびのびと、個性豊かに成長する姿を見守り、支援する。それが保育者の役割です。子どもと一緒にどろんこになり、泥だらけの手をつなぎ、青空の下で笑いこぼる。母親のような愛情と、子どもと同じ旺盛な好奇心、そして豊かな専門的知識を持った保育者の育成を目指しています。

そのために、乳幼児保育、小児保健、発達心理学、児童福祉、社会福祉などの理論から音楽、美術、体育などの実技まで、幅広い内容を学びます。また2年間で10週間、幼稚園や保育所及びその他の社会福祉施設での実習も経験。子どもたちとのふれあいを通して学んだことは、保育、福祉の分野で力を発揮します。この実習には、本学の附属幼稚園も活用され、在学生にとって、頼もしい実習の場となっています。



尚綱学園の絵画

尚綱学園は、平成十年に創立百十年を迎えました。百周年から丁度十年過ぎた節目の時でしたので、記念誌「花さくら」が発行されました。この時、資料蒐集の一環として高校にある絵画・書などの調査を行いました。そして、あまりにも高名な方の作品があることに驚きました。これらの方々は、後世に伝えてゆかなければならない貴重な文化遺産です。多くの方々にこのことを知っていただきたいと思ひ、これから数回にわたり作品を紹介いたします。はじめに、本校教諭美術・洋画)でした松岡正直を取り上げます。



松岡は、明治三〇(一八九五年、熊本市で生まれ、昭和五二(一九七六年

に亡くなりました。銀光会・東光会会員で、本校には、大正十三(一九二四年から昭和四三(一九六八年)まで四五年間勤めました。松岡の本校に対する思いは、「尚綱」六四号(昭和四四年一月)に切々と語られています。

「かえり見れば四十五年もの間には語りつくせぬいろいろのことがありました。尚綱校で育ち、尚綱校で人となり生を過ごしたようなものですかね。この間あまり欠席もなかった私でしたが、昨年は病気や交通事故にあつて欠勤が続き、ついに退職となったわけです。」

さて、松岡は昭和八(一九三三年、田代順七(元尚綱短期大学教授らと銀光会を創立しました。本校で教鞭を揮うかたわら、昭和十二(一九三七年、文展に入選し、日展の入選は九回を数えました。また、熊本県芸術功労者にも選ばれました。松岡は、本校退職後も創作意欲が旺盛でした。

「喜寿に達した私もおかげで元気です。この(昭和四八年)九月末から十月にかけて次女の砂村登美子の助けを得て東京から上高地への写生旅行に出かけ、…(尚綱)六九号)また、出水町今(現出水二丁目)に私塾「松岡画研」を開いて、後進の指導にあたることを大変な楽しみにしていました。尚綱六四号によれば、自らの人生観を次のように述べています。

「扱て私の仕事は絵画で、この仕事は一生のものですから中には三代でその人の最高のものを出す作家、五十代、七、八十代になって個性の最高を発揮する人も数あります。そこで私も今こそ時機到来と専念に頑張っております。」

松岡にとつて、尚綱校で過ごした日々はかけがえない自らの人生の歩みであつたと思ひます。そして、自らも述べているように、尚綱校で人格を培い、人間として育てられたのでした。自らの働いた職場である尚綱校に限りない愛情を注ぎ、誇りを持つていたと思ひます。やはり、尚綱校はこのよう



松岡正直「浜戸川」

教職員に支えられていたのだと実感しました。

松岡の作品は、本校に二百点あります。

一、「浜戸川」(校史資料室蔵)

二、「石灰岩の島」(天草姫戸三)号館試食堂架設)

また、「尚綱」六三、七十号の表紙絵なども描いています。

(注) 浜戸川：下益城郡美里町田中央町の山地に源を発する。同郡城東町、唐吉町を流れ、宇土市で浜戸川に合流する。

文展：文部省美術展覧会

明治四〇(一九〇七)年創立

現在の日展(日本美術展覧会)

銀光会：在野美術家団体(昭和八(一九三三年、東光会(昭和七年創立)の地方支部として田代順七、松岡正直らが創立)

連載コラム 貧しい国の豊かな心

④

ある家で、お姉ちゃんがお隣からケーキを一個戴きました。お母さんは姉弟に半分ずつ食べなさいと渡して「なんで半分にするのかわかる？」と聞きました。姉は「私がみんな食べるとかわいそうだから」と答えました。一方弟は「今日半分にするとう度僕がもらった時、お姉ちゃんも半分もらえから」と言いました。するとお母さんは「どちらも少しづつ正しいわね。だけどかわいそうだから分けるのなら、憎らしいとあげないことになるのではないの。この次ももらえるから分けるというのだったら、分けてもらえる保障がないとあげないことになるわね。」そして、お母さんは子供たちにゆっくり論すように「お父さん、お母さんは、あなたたちにケーキを丸ごと一人で食べるより、二人で仲良く分けて食べる方がおいしいと思える人間になって欲しいと願っているのよ」と話しました。

今、私達は余裕ができたから援助する。かわいそうだから助けるという発想ですが、余ったからでは余らなかつたらしないことになりません。かわいそうだから、見下した態度です。どちらも大事な何か欠けているようです。インドは、世界中で一番貧しい国だといわれています。その貧しい国の人々が、さらに自分より貧しい人たちのために、喜んで喜捨をしています。このことは物を施すことは、余ったから、かわいそうだからするものではないことを教えています。



皆様のオリジナルエッセイの投稿を募集しています

オリジナルエッセイであれば、特にテーマや特定のジャンルまた、応募資格も問いません。本文800字前後にてお願いいたします。(随時募集)応募の際には必ず氏名、住所、電話番号を明記してください。作品は本誌上への掲載をもって発表と換えさせていただきます。

●作品の宛先・お問い合わせ

尚綱学園事務局 広報室宛 〒862-8678 熊本県熊本市九品寺2丁目6番78号
メールでの応募も受け付けております ◆[メールアドレス] kohou@shokei-gakuen.ac.jp

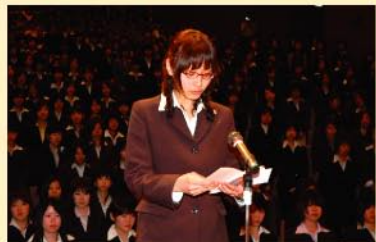
● SHOKEI INFORMATION

今年も901名が新たな想いを胸に、桜の華咲く尚綱学園の門をくぐりました。4月8日(金)熊本県立劇場にて大学(68名)短期大学(417名)の合同入学式。同日、当高校体育館にて高等学校(258名)中学校(32名)の合同入学式。また、4月14日(木)新築されたばかりの幼稚園多目的ホールにて126名の入園式が執り行われました。

4/8 尚綱大学・尚綱短期大学〈熊本県立劇場〉



(左上・上) 尚綱大学



(左) 尚綱短大

4/8 尚綱高等学校・尚綱中学校〈当高校体育館〉



(上) 尚綱中学校



(左・左上) 尚綱高校

4/14 尚綱付属幼稚園〈幼稚園多目的ホール〉



TOPICS

トピックス

姉妹でつかんだエアロビ世界一!!



4月9、10日に愛知県で開催された「第16回エアロビック世界選手権大会2005」に出場した大村智美さん(高校3年)と沙織さん(高校1年)。姉妹で挑んだユーストリオ部門で見事優勝を果たしました。「福岡に住む青葉葵さんとトリオを組んだので、練習は大変でした。本番ではミスもありましたが、頑張れ!頑張れ!と自分に言い聞かせながら、気持ちを切り替えて乗り切りました」と智美さん。沙織さんはシングル部門にも出場し、6位に入賞。「トリオに命をかけていたので、シングルは練習が足りませんでした。来年はトリオでもシングルでも優勝を目指したい」と笑顔で答えられました。優勝の瞬間は抱き合って飛び上がり、これまで練習を見守り続けてきたインストラクターでもあるお母さんも、泣いて喜んでくれたとか。14~17歳が演技を競うユース大会に姉妹で出場できるのは今年で最後。有終の美を飾った二人はもっとエアロビに熱中したいと話してくれました。



左) 沙織さん(高校1年)・右) 智美さん(高校3年)

礎 vol.04 編集後記 Voice of Staff

平成18年度、わが尚綱学園は変革の年を迎えます。当学園は、100年以上の歴史の中で、常に地域社会の中でいきいきと輝く女性の育成を目ざし、多くの優れた人材を輩出してまいりました。その根底には、建学の精神を守り続けながら、世の移り変わりとらえた柔軟な教育方針にあったと自負しております。今回の大幅な学園改組も、未来の社会変化を見据えた上で行うものです。そこで今号は、来年に迫った大学を中心とする改組について頁をさき、その目的と現況をご説明差し上げる号となりました。その全容をご理解いただくには言葉足らずな面もあるかと存じますが、新しい一歩を踏み出す学園を、変わらず見守り続けていただければ、と思っています。



SHOKEI Campus Event Report

大学・短期大学

○ 榎木祭〔尚綱大学〕

尚綱大学の一大イベントである榎木祭が11月13・14日、盛大に行われました。今年度も学生を中心に、各サークル・各コースが作品展示や出店によって、榎木祭を盛り上げました。今回が初めての和太鼓での演奏で幕を開け、1日目は仕舞いやファッションショー、2日目は外部からゲストを招き、最高の盛り上がりを見せました。この2日間は、外部からたくさんの来場者もあり、尚綱大学のキャンパスは笑い声や、歓声の絶えない学園祭となりました。



○ 秋陽祭〔尚綱短期大学〕

11月12日から14日までの3日間開催されました。九品寺は屋外でカラオケやライブ、ダンスやバザー等を、屋内では研究発表や給食管理バザー・食物模擬、映画等を行いました。榎木は、ステージのイベントやカラオケ、ライブ、クラスバザー等が行われ、両キャンパスとも大盛況でした。実行委員の熱意と努力、多くの学生の協力で実りある秋陽祭となりました。



高等学校

○ 修学旅行

高等学校1年生は、11月30日(火)~12月4日(土)の4泊5日間、関東方面への修学旅行を実施。日本の政治・経済の中心となる首都東京で国会議事堂、皇居、上野地区(美術館・博物館・動物園)などを見学。また、コース別に分かれて横浜、日光などで自主研修も行いました。旅行中は天候によく恵まれ、日常と違った場所で研修を行うことで、そこに新たな発見や感動があり、生徒たちも大満足の修学旅行でした。



東京ディズニーランドにて



東京ディズニーランドにて

中学校

○ 修学旅行

尚綱中2年生17名は、12月8日から3泊4日の修学旅行を実施した。法隆寺、薬師寺、東大寺、宇治平等院では古都の冬を満喫。「人と防災未来センター」では自然の恐ろしさに震え、「海遊館」では自然の美しさにうっとり。京都市内班別自主研修で友情を深め、異国情緒溢れる「USJ」でご満喫。自分たちで計画し、しおりを作成し、成功させた関西への旅。日常生活では得られないこの貴重な経験を、大切にしたい。



薬師寺にて



東大寺にて